

農繁期 レポート

令和8年 7月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

中干しの初期は雨が多く乾くか心配でしたがよい天気も続きしっかりと中干しができました。気温が高くなり穂の生育も始まり水が必要になり日に日に少なくなる水路の水が心配になりましたが適度に雨も降り田んぼ全体的に水が行き渡りました。もうすぐで穂が出揃うのでカメムシの防除をします。

7月の作業内容等

1.水管理②

中干し後は、間断灌水(水を張る状態と水を抜いて乾かす状態を繰り返す管理)を行います。これにより、土壌中へ酸素を供給し、根の健全な生育を促します。また、田面を適度に乾かすことで土壌表面を固くし、収穫時の作業性向上や稲の倒伏防止にもつながります。



中干作業の終了

2.穂肥(ほごえ)

穂肥(出穂前に行う追肥)は、稲が穂を形成し、実を充実させるために必要な養分を補給する作業です。適切な時期に施肥することで、穂の大きさや籾の充実を促し、収量や品質の向上につながります。



穂肥用肥料

3.獣害対策

獣害による農作物被害額は、近年再び増加傾向にあり、令和6年には約188億円となりました。背景には農村人口の減少により里山の管理が行き届かなくなり、野生動物が人里へ近づきやすい環境が広がったためと考えられています。また、耕作放棄地の増加によって、使われなくなった田畑が野生動物の隠れ家や餌場となっています。さらに、気候の温暖化による積雪の減少で野生動物が冬を越しやすくなり、個体数の増加も被害拡大の一因と考えられています。



電気柵の設置



電気柵用の電源